

自主防災組織の 設立を

市では大規模な災害が発生した場合、各防災関係機関や民間防災団体の協力を得て、防災活動を行います。

しかし、いろいろな悪条件が重なって、市の防災活動が十分にできないことが予想されます。そのような場合に、災害による被害を防止し軽減するためには、地域のみなさん自らが、初期消火、被害者の救出救護、避難誘導などを行い、地域全体の安全を守る必要があります。

また、災害時に効果的な活動を行うためには、平常時から地域の特性を把握し、活動内容などを、あらかじめ地域内で相談し決めておく必要があります。そのような防災活動を効果的に行うための組織が「自主防災組織」です。

市では、既存の自治会単位での設立を推進しており、設立にあたっての相談、職員による出前講座の実施、防災資機材等の貸与を行っています。ぜひ、自主防災組織を設立してください。

安全な帰宅の ために

職場や学校、外出先など、自宅から離れた場所にいるときに、大規模な災害が発生すると、公共交通機関の運行停止などにより、帰宅が困難になる人が多数発生することが予想されます。

災害が発生したら、まず身の安全を確保しましょう。つぎに、むやみに移動は開始せず、安全な場所にとどまって、落ち着いて交通情報や被害情報等を確認し、適切な行動を心がけましょう。また、携帯ラジオなど情報収集手段の確保や家族の安否の確認方法、バスや徒歩による帰宅経路の確認など予め準備しておくことが大切です。



お問い合わせは、

市総務課防災対策室（4階）

TEL 201519、FAX 201602へ。

市長が行く 災害への備え

No.53

茂原市長 田中豊彦



3・11の震災以来、日本中で大地震を想定した防災訓練が行われています。もちろん、東南海トラフ沖地震や首都圏直下型地震、茨城房総沖地震など、今まさに地震列島の様相を帯びてきている現状を考えると、絶対にやらなければならぬことだと考えます。行政と地域の住民とが一体となって、何度も何度も繰り返して訓練することによって、いざというときに確かな行動がとれるようになると思われるからです。

今、私が最も気になってるのは、いわゆるゲリラ豪雨と呼ばれる集中豪雨です。数年前から、市役所脇を流れる豊田川の水量が、それほど雨が降っていないにもかかわらず、急激に増加してくることがありました。上流地域での大雨の影響かと、不安に思いました。以前「釜石の奇跡」で知られている群馬大学の片田教授に市民会館で講

演をしていただいたことがありましたが、その時に「茂原は、地震で心配な点は直下型の地震であり、海岸線から10キロ以上離れている地域なので、津波による被害はそれほど心配することは無い。むしろこの地域で心配なのは、集中豪雨による被害です」と話されていました。「近年の異常気象の影響からか、ここ数年、台風の数も減ってきているが、規模が巨大化してきている」ともおっしゃっておられました。

地球の温暖化等による異常気象による地球規模での大きな気象変動は、想像を超えた大きな被害をもたらすのではないかと心配しています。最近よく報道される突然のゲリラ豪雨では、1時間に50mmという現在の基準を大きく上回る100mm以上の雨をいたるところに降らしており、たまにたま今のところ、この地域を避けていつているに過ぎないように感じられます。もし、突然の集中豪雨が襲ってきた

ときに、どのように対処するのか、私達はよく考え、そして備えなければなりません。市の職員に対しては、いつ起こるか分からない災害に備えて、万全の体制で臨めるように、指示を出しております。

河川の整備に関して、県では一宮川の河川改修事業にかなり力を入れており、国では平成18年から22年にかけて松潟堰の改良工事を行ってきました。その他、調節池の整備、排水用のポンプの設置等も進めてきております。

また、災害のときにも使えるよう、財政調整基金の積み増しをし、今年度末には概算で20億円までになる予定です。

茂原市も過去に大きな災害に遭い、多くの被害を被った経緯があります。市民の皆さんも、常に災害に対する心構えを忘れずに、自らできることから備えていくことも大切かと考えます。